

AMR アライアンス・ジャパン 緊急フォーラム報告

抗菌薬の安定供給の確保と抗菌薬市場の改善に向け

G20 各国に求められる役割

2019 年 6 月の G20 大阪サミットにおける首脳宣言には、薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）に対する世界的な取組みを加速させるという意志が盛り込まれた。同年 10 月の G20 岡山保健大臣会合においては、包括的かつ実効性のある議論が期待されるが、今回 AMR アライアンス・ジャパンは、昨今の国内の抗菌薬の供給不安を踏まえて、抗菌薬の安定供給と抗菌薬市場の構造にかかる問題に焦点を絞った緊急フォーラムを開催した。以下に本フォーラムでの議論を取りまとめた。

抗菌薬の安定供給は G20 各国における安全保障・危機管理上の課題であり、その供給不安は AMR の拡大を助長する可能性があるという共通認識が必要

抗菌薬の供給不安は、最適な感染症診療を困難にする、G20 各国国民の生命に直結する問題である。さらに、抗菌薬の供給不安は、抗菌薬の適正使用の障害となり、結果として AMR の拡大を助長する可能性がある。この抗菌薬の供給不安の問題は、近年、日本のみならず欧米でも生じている。G20 各国には、現在の危機的状況を正しく理解し、抗菌薬の安定供給のための以下の行動をとることが求められる。

抗菌薬の供給体制を強化するための国際協力が必要

現在、抗菌薬の供給体制は、世界のある地域に原薬の生産拠点が集中する等の様々な理由により極めて脆弱な状況にある。G20 各国政府は、各国国民の生命を守るために叡智と意志を集中し、官民パートナーシップを含めた強固な国際的な協力体制を構築し、抗菌薬の安定供給を世界規模で可能にする体制を整える必要がある。この体制により、安定的な抗菌薬供給に資する、抗菌薬の製造・需要・供給に関するリアルタイムな情報共有、抗菌薬の適切な備蓄、供給問題が発生した場合の多国間支援等が実現される必要がある。また、抗菌薬の生産を世界規模で強化するための財政的措置も合わせて検討する必要がある。

抗菌薬市場の環境を整備するための G20 各国の努力が必要

抗菌薬の供給不安の背景には、抗菌薬価格の低下等の市場の構造的な課題が存在する。新たな抗菌薬の開発においても、妥当なビジネス環境が整備されておらず、企業が市場に留まるあるいは参入することが極めて厳しい状況である。抗菌薬ビジネスの魅力が失われることは、貴重な技術・人材等の多大な喪失を招き、新たな抗菌薬の開発をさらに困難なものとする。G20 各国政府は、国民の生命に直結する抗菌薬の市場を維持できるよう、抗菌薬の適正な価格設定、各国の規制の調和、新たなインセンティブモデルの構築、リスクシェアリングの仕組み等を含む、魅力あるビジネス環境整備のための議論を進める必要がある。

本書は、特定の登壇者の意見ではなく、本フォーラムの議論に基づき AMR アライアンス・ジャパン事務局（特定非営利活動法人 日本医療政策機構）が取り纏めた報告書である。

AMR アライアンス・ジャパン (<https://www.amralliancejapan.org/>)

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 3 階

Tel: 03-4243-7156 Fax: 03-4243-7378 E-mail: info@hgpi.org（担当：McEnany、柴田、坊野、菅原）